

2019 年度第 10 回価格審査会の開催について

2019 年度第 10 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、当財団の価格情報誌の発行前にその掲載価格の妥当性等について、外部の有識者によって審査を行うものです。

開催日時	2020 年 1 月 15 日(水) 10:00 ~ 11:30	
場 所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	江川 浩	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
	関口 司	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 次長
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：川野辺 豊、課長：品川 広志
	建築調査部	部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：後藤 裕
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

□2019 年度第 9 回価格審査会議事録(案) 確認

□2019 年度第 10 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1.	「建設物価」2月号、「Web 建設物価」2月号の価格動向
・	価格が上伸した資材は、伸銅品(全都市)、レディーミクストコンクリート(留萌、丹波)、コンクリート用骨材(魚津、鹿児島)、仮設・土木用木材【丸太(松)】(北陸、近畿、四国、九州の各都市)、アスファルト混合物(金沢)、道路用コンクリート製品(広島、高知)、遠心力鉄筋コンクリート管(鳥取、九州の各都市)、電線(全都市)、燃料油【軽油ローリー渡し】(全都市)、鉄スクラップ【鉄】(沖縄除く各都市)、非鉄スクラップ【銅】(全都市)などであることを説明。
・	価格が下落した資材は、H形鋼(北陸の各都市)、一般建築用木材(関東、中国の各都市)、フランジ(鋼板・鋳鉄)(全都市)、鉄スクラップ【ステンレス】(関東、近畿、中国の各都市)、非鉄スクラップ【鉛】(大阪、福岡)などであることを説明。
2.	注目資材
・	軽油(ローリー渡し)【東京】
3.	比較資料
・	企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 1	鋼材関連資材の今後の見通しはどうか。	原料である鉄スクラップの輸出価格が上伸しているため、鋼材価格も上伸するという見方がある。一方で、オリパラ関連工事も終盤を迎え、鋼材需要が低迷するなか、原料上伸分を価格に転嫁できないとする見方もあり、先行きは不透明である。
審議 2	運転手不足は、全国的なものか。	「標準貨物自動車運送約款」の改訂などもあり、全国的に運転手不足が指摘されている。特に、中国地区など災害復旧事業が本格化している地区では、多くの資材で運転手不足に伴う運搬費上昇を理由とした値上げが打ち出されている。
審議 3	ここ数年の鋼材価格の動きを総括すると 2019 年をピークに下降している。なにが影響したのか。	2019 年に入り、都内の再開発事業が一巡し、オリパラ関連工事もほぼ終息したため国内の鋼材需要が減少に転じた。また、米中貿易摩擦などでアジア圏を中心に海外市況も低迷している。こうしたことが、国内の鋼材市況が低迷している主な要因である。
審議 4	東京地区における生コンの値上げ理由は、千葉県産の砂が少なくなり北海道産を使用するようになったためと聞いたが、なぜ突然千葉県で砂が取れなくなってしまったのか。	千葉県産の砂は陸砂であるため、将来枯渇が懸念されている。東京地区の多くの生コンプラントは、将来を見据えた安定調達のために、品質を満足する調達先の確保に努めている。
審議 5	木材における輸入材と国産材の割合はどれくらいか。	製材用の素材としての入荷量では、およそ四分の三が国産材、四分の一が輸入材となっている。
審議 6	東京地区で、生コンの出荷量が大幅に減少しているが、生コンをあまり使用しない設計（鉄骨造、プレキャスト化など）に代わっていると考えられないか。	東京地区の生コン協組は、生コンをあまり使用しない設計への移行をある程度見込んで需要を見通したが、見通し以上に需要が落ち込んでいる。また、RC造からS造への移行、現場打ちからプレキャストへの移行を定量的に表すことは難しい。
審議 7	硫黄分 0.5%以下のC重油は、C重油全体でどの程度の割合を占めているのか。	硫黄分 0.5%超のC重油は、スクラバー（排ガス除去装置）の設置が必要となる。この装置に掛かる費用と手間を考えれば、0.5%以下が今後主流になると思われる。
審議 8	推進工法用管やヒューム管など下水道資材が九州地区で変動した理由は。	九州地区では、下水道需要が低迷しているなか、九州管内のメーカー各社が製造、輸送コストの上昇を理由に値上げを打ち出し、需要家が受け入れたため値上げが浸透した。
審議結果	「建設物価」2月号、「Web 建設物価」2月号の価格動向に問題はなかった。	